

卒業研究の全体講義（第3回）を開催いたしました。

卒業研究の全体講義（第3回）「卒業論文の作成について」を、12月20日に開催いたしました。主な内容は下記のとおりです。

1. 論文とは何か

(1) 学術的・社会的に価値のある「問い」に対して、書き手の「答え（結論・主張）」を、合理的な根拠を挙げて、論理的に記述した文書である。

(2) 論文の論理構成は、「答え（結論・主張）」をいくつかの根拠で支持し、それぞれの根拠をいくつかの具体的な証拠で支持する。

(3) 卒業論文は、レポートや調査報告書などの「技術的な文書」を作成する手順とコツを学ぶものである。

2. 論文作成の準備（素材を集める）

(1) 自分がかかっても言いたいこと（結論・主張）は何かを明らかにする。自分の言いたいことを裏付けるデータ・図・写真を1～3枚選ぶ（「メインディッシュ」）。

(2) 「メイン」の内容を理解するのを助ける図や表（補足資料）を、20～30枚選ぶ。実験装置、実験方法、計測方法、実験結果1,・・・,「メイン」,展開などの図。

(3) 論文の目次を考える。論文の論理構成に対応した章と節を作成する。用意した20～30枚の図を、章、節に振り分ける。それぞれの図の説明に、1段落を充てる。「具体的事実 → その図から言えること（意見）」の順で、図を説明する。

3. 論文の執筆（内容と流れを重視して、一気に書く）

(1) 緒言は、読者の多くが認識している一般的事実「背景」から、「問い」に行きつくよう誘導する。いくつかの段落に分け、研究対象と研究目的、研究対象に対する歴史的背景や社会の取り組み、自分たちのこれまでの取り組み、研究の「問い」と基本方針などを、わかりやすく示す。

(2) 実験方法は、実験に用いた装置や方法、計測方法などを節に分けて説明する。節の中は、段落に分け、1枚の図に対して1つの段落で説明する。

(3) 実験結果は、実験のシリーズごとに節に分けて説明する。結論につながる重要な結果は、節の最後にまとめておく。

(4) 結言は、まず前文で、研究の目標と基本方針を再確認する。次に、結論につながる主な結果を、1つの内容で1つの段落を使い簡潔に述べる。ここで挙げる内容は、各節の最後にまとめたものである。最後に、上記で述べた結果を根拠にして、結論を述べる。

4. 論文の見直し（第3者の読みやすさを考えて、手直しをする）

次の項目に関して、いくつかのチェックポイントを挙げた。

(1) 主張点

(2) 章と節、段落の構成に関して

(3) 文章のわかりやすさ（読みやすさ）に関して

説明の順序が、「概観（大）から細部（小）」、「既知から未知」になっているか。

章の先頭に、総論（その章の役割）が記述されているか。

段落の先頭に、トピックセンテンス（その段落のトピック）が記述されているか。

1つの段落が、1つのトピックだけを述べているか。

1つの文は、1つの事柄だけを述べているか。

今後の予定は次の通りです。

1月25日 卒業論文概要提出

2月1日 卒業論文本文提出

2月8日 卒業研究発表